

平成29年度滝川市農業振興基金運用会議の開催結果について

開催日時	平成29年6月26日（月）午後2時～午後2時55分
開催場所	滝川市役所 3階 302会議室
出席状況	【委員】 出席：山岸委員長、川本副委員長、南副委員長、高谷委員、今野委員、土田委員、曾我部委員、岡委員、岩崎委員 欠席：岩谷委員 【滝川市（事務局）】 産業振興部農政課 和田課長、鈴木主査
議事内容	1 開会 2 委員長あいさつ 山岸委員長から今年の農作物の生育状況についての報告と議件について忌憚のない意見をいただきたいとの挨拶があった。 3 議件（議長：山岸委員長、資料説明：鈴木主査） （1）農業振興基金の積立状況について 事務局から資料に基づき説明。 （質疑なし） （2）農業振興基金事業の実施状況について ・滝川農業塾について ・平成28年度滝川農業塾活動状況及び収支決算 ・平成29年度滝川農業塾活動計画及び収支予算 事務局から資料に基づき説明。 【質疑】 このまま基金を取り崩して事業を継続していくと、基金残高は減少していく。市としては基金の現状と今後の積み立て等についてどのように考えているのか。 【説明】 現在の市の財政状況から基金への積立は困難と考えている。一方、農業塾については農業者、関係機関からの評価も高いことから、基金を活用し、当面は継続していきたい。基金積立については、農業振興に対する寄付に期待するとともに、ふるさと納税をその財源として活用すること等についても、引き続き財政課と検討していきたい。 【質疑】 農業塾第4期生は平成28年度に修了しているが、平成29年度に一部助成対象とした経過は。 【説明】 本来塾生中に受講すべき基礎研修のカリキュラムについて、昨年度すでに定員に達してしまい受講できなかった研修があったことから、内部規定に基づき今年度の助成対象としている。 【質疑】 今年度6名の塾生が入塾し、来年度も定員の6名が入塾すると併せて12名とな

	る。200万円の予算では不足するのではないか。 【説明】 一期生（定員6名）について100万円の予算で事業を実施することとしており、今後も200万円の範囲内で塾の運営を行っていく予定である。 【質疑】 消耗品費が予算に対比し大きく増加した理由は。 【説明】 修了生には今後の農業経営に役立ててもらふ記念品を、上限額を設け本人からの希望を募り贈呈しているが、この記念品代が前年度に比べ高かったため。前年度の記念品代が低額だったことから予算対比で増額となった。 (3) 滝川市農業振興基金運用会議設置要綱の改正について 事務局から資料に基づき所属機関団体の名称変更及び構成員の職名等変更について説明。 (質疑なし) (4) その他 【質疑等】 基金事業で現在実施しているのは滝川農業塾のみだが、基金を他の事業に活用することは可能なのか。 【説明】 現在、基金事業として本会議の了承を得て毎年予算化しているものは滝川農業塾の運営のみだが、この会議で他の事業についても実施が必要と決定してその旨を市長へ具申し、市長がその必要性を認めて予算措置すれば、事業を実施するという流れになる。 【質疑等】 花嫁、花婿の確保対策の現状は。 【説明】 花嫁、花婿の確保対策については、過去には基金事業として実施したこともあるが、想定していた効果がなかったため現在は実施していない。 現在の取り組みとしては、婚活に関する情報が関係機関等からあった場合に、JAたきかわ青年部を通じて部員等へ情報提供することとしている。 【質疑等】 若手農業者の海外研修への助成等はできないか。 【説明】 現在の要綱に定める基金事業の中には、担い手の海外の先進地研修派遣も含まれているので、先ほども説明したが、本会議として実施が必要な旨市長へ具申し、市長がその必要性を認め、派遣への助成に係る具体的な制度設計を行い予算措置すれば、実施までに時間はかかるが、助成することは可能となる。
会議資料	会議資料 会議次第 資料1 農業振興基金の積立状況 資料2 滝川農業塾について 資料3 滝川農業塾 平成28年度事業報告及び収支決算 資料4 滝川農業塾 平成29年度事業計画及び収支予算 資料5 滝川市農業振興基金運用会議設置要綱